

採択協は説明責任を

校長会長「事態を憂慮」



八重山地区中学校長会(会長・新田健夫大浜中学校長、同小学校長会(会長・石垣安志新川小学校長)は16日、来春以降使用される中学校教科書の採択に関するお願いと題する文書を教科用図書八重山採択地区協議会(会長・玉津博克石垣市教育長)に提出し、教科書選定の説明責任を果たすことを求めた。校長会が教科書採択に関して要望書を出すのは初めて。

定問題が頻繁に報道されるようになったことを受け、今月4日と15日の役員会で対応を協議。16日に3市町の校長会長を加えた拡大理事会を開き、要望書をとりまとめた。

メンバーからは、協議会の公開と、委員それぞれが推薦した教科書の公表を求める声などがあつたという。新田、石垣両会長は同日、市教委を訪れて要望書を提出。前花雄二教育部長、崎山晃学枝指導課長が対応した。要望に対し、前花部長らは、玉津教育長が進めている教科書選

新田会長は17日、取材に対し「学力向上の冠鷲プロジェクトも軌道に乗りつつあり、学力向上にまい進する矢先に、教科書問題が出てきて憂慮している」と語った。

地区校長会の要望事項は、教育現場で日々取り扱う教科書の採択にあたって①教科に精通している調査員の意見を尊重すること②公平性、透明性に留意し、説明責任を果たすこと③の2点。

新田会長によると、地区校長会は教科書選定問題が頻繁に報道されるようになったことを受け、今月4日と15日の役員会で対応を協議。16日に3市町の校長会長を加えた拡大理事会を開き、要望書をとりまとめた。

メンバーからは、協議会の公開と、委員それぞれが推薦した教科書の公表を求める声などがあつたという。新田、石垣両会長は同日、市教委を訪れて要望書を提出。前花雄二教育部長、崎山晃学枝指導課長が対応した。要望に対し、前花部長らは、玉津教育長が進めている教科書選

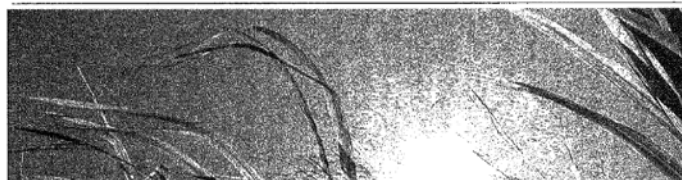
「学力向上どうなる」 学校現場に募る苛立ち

教科書選定問題で、ていることを示してお八重山地区小学校長、ある校長は「学力向上問題に取り組まなくてはいけない時期な地区協議会に異例の要望を行った。協議会を早く収束させてほしい」と苛立ちを隠さな

教育長が進める教科書選定プロセスの改革について、学校現場に理解が広がっていないことがある。ある校長は「改革に話し合いや事前の説明がない。急にやっていると不満を漏ら

し「これだけ世間を騒然とさせて、学校教育への不信感が募れば、学力向上はどうなるのか」と訴えた。新田会長は、教科書問題が連日、マスコミで報道されている事態について「世間を騒がせたり、学校現場と教育行政の対立を招くようなことはしないでほしい」と懸念を示す。

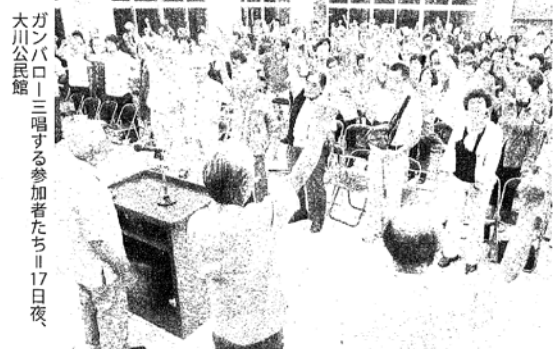
述べた。教科書選定に当たつての要望として「県民は沖縄戦で苦勞してきた。学校現場を混乱させるような教科書を採択することは極力避けたい」と述べ、名指しは避けたものの「新しい歴史教科書をつくる会」系の育鵬社、自由社の教科書を採択しないよう暗に求



選定目に示威行動検討

市民集会 2社の教科書採択に反対

来年度の八重山地区の教科書採択問題で、「子どもと教科書を考える市民集会」(主催・子どもと教科書を考える八重山地区住民の会)が17日夜、大川公民館で開かれた。郡内から350人(主催者発表)の住民らが参加し、新しい歴史教科書をつくる会系の育鵬社版、自由社版の教科書の選定・採択に反対する集会決議を採択した。住民の会は今後、教科書用図書八重山採択地区協議会(会長・玉津博克、石垣市教育長)に対して協議会委員名の公表を求めるほか、教科書選定日の23日にはプラカードや座り込みなどを行う考え。



ガンバロー三唱する参加者たち 17日夜、大川公民館

「誤った歴史観持たせる」

同日、主催者である住民の会共同代表の仲山忠亨氏は「立派な教育を受けるには、条件を整えることが必要。子どもたちは教科書を通して学び、人格を形成していく」と、教科書採択に現場の教諭の声を反映させるべきと述べた。

市民集会では、渡嘉敷島で起こった集団自決の生存者である古川嘉勝氏と、琉球大学准教授の山口剛史氏が講演を行った。

古川氏は7社の中学校歴史教科書での「集団自決(強制集団死)」「南京事件」「従軍慰安婦」の内容比較を示し、

当時6歳だった自身の体験した集団自決について語った。

「日本軍の配備と住民への手りゅう弾配布がなければ、集団自決は起こらなかった」とし、「当時の教育を復活させてはいけない」と強調した。

山口氏はこれまでの教科書問題について説明。つくる会系の教科書での年表盗用について挙げ、「教科書検定制度そのものが公正公平で行われているものではない」と指摘。

また、つくる会系の教科書を採択するマニユアルがあることも紹介し、「教育行政を変える動きは全国で起こっている。子どもたちのためになるのか、チエックして意見すべき」とした。

市民の意見発表では、沖教祖の上原邦夫さん、高教祖の上原均さん、女性代表の中村

恵美子さん、保護者代表で真実の沖縄戦を学んだ仲健さんがそれぞれ意見を述べた。

このうち、仲健さんは「採択以前に協議会の運営に疑念を持つ。子どもたちには正しい方法で選ばれた教科書で、問題点を指摘。子どもたちに誤った歴史観をもたせる育鵬社版、自由社版の歴史・公民の教科書の選定・採択に断固反対する」と訴えている。

最後は参加者全員でガンバロー三唱し、氣勢を上げた。

27人に修了証

水泳教室に参加の児童

市内小学生を対象とした児童は泳げるようになった夏休み水泳教室(主催・市教委、市児童が玉津博克教育長、市児童が玉津博克教育長)の修了式が、17日夕、登野城小学校で開かれた。修了式で、玉津教育長は「泳げない子どももチャレンジして、泳げなかつ喜ばしい」と称えた。

修了証は、とても頑張った児童に「アヤバユ」(ホシザヨリ)、努力賞に「スイミー」(トントンミー)と名称をつけて、贈られた。

同教室は、海に囲まれた県内児童が、全国平均して泳げないことから、児童全員の水泳の達成を目指して実施した。



児童27人が修了証を受け取った=登野城小

那覇市に保護開始を命令

生活保護の申請を那覇市が却下した処分は違法として、同市の当山美代子(とうやま・みよこ)さん(75)が処分取り消しなどを求めた訴訟の判決で、那覇地裁(酒井良介(さかい・りょうすけ)裁判長)は17日「生活は切迫しており、市は裁量権を逸脱した」として請求を認め、当山さ